

もくじ

- ・ あるもみの木きの物語ものがたり

あるもみの木きの

ものがたり
物語

げんさく
原作： アンデルセンどうわ童話

イラスト： かつなが みつとし

へんしゅう
編集： YellowBirdProject

とある町外れの森に、一本の小さなもみの木が生えていました。そのもみの木の周りには、年取った立派なもみの木や、若い背の高いもみの木がたくさんありました。ここは日当たりも良く、時折すずしい風も吹いて、とても居心地が良さそうです。

ある日、この小さなもみの木の上を、一羽のウサギがぴよんと飛び越えていきました。

「もう、まただよ。ぼくが小さいとおもってばかりにして。あ～あ、早く大きくなりたいなあ」

小さなもみの木は毎日のように、自分より大きなもみの木を、うらやましそうに見上げていました。



クリスマスが近づいてくると、町から人がたくさん
やってきて、大きなもみの木をオノで切り倒して、
持ち帰っていきました。小さなもみの木は、枝に
とまっていたスズメに尋ねました。

「ねえすずめくん、人間たちはあのもみの木をどこに
運んでいくんだい？」

「あれは町に運ばれて、クリスマスツリーになるの
さ。色とりどりの飾りや、ろうソクの明かりで
キラキラして、とてもきれいなんだよ」

小さなもみの木は、早く大きくなって、自分も
すてきなクリスマスツリーになりたいと思いました。

